

会津柳津学園中学校の目指すもの

柳津町立会津柳津学園中学校

教育目標

未来を創造し、社会に貢献する人材の育成

しなやかな知性 ゆたかな感性 たくましい心身

柳のようにしなやかに 只見川のようにゆたかに 博士山のようにたくましく

平成31年度スローガン

あこがれの自分をめざして ～共に歩む 一人でも跳ぶ～

あこがれ(理想)を求めて

めざす学校の姿

「信頼」：「行ってよかった、行かせてよかった」と実感できる学校

- ① 生徒が、生き生きと学習し、笑顔あふれる学校。
- ② 教師が、生徒の良さを引き出し、共に成長できる働きがいのある学校。
- ③ 保護者が、学校を信頼し、子どもの成長のために共に協力する学校。
- ④ 地域が、親しみをもて、明るく開かれた学校。

学校生活に、夢中になれるものを見いださせ、「明日が楽しみでしようがない」学校を目指し、生徒には「行ってよかった」「柳学中でよかった」、保護者には「行かせてよかった」「会津柳津学園中学校に満足！」と言ってもらえる学校を目指します。

学校の教育目標を達成するためには、学校への信頼が何よりもの基盤です。子どもの命を守り、出会う人全てを幸せにするのが学校の使命です。

そこで、

一人ひとりが「確かな成長」を感じ取れるあこがれの学校

を目指していきます。

あこがれの学校とは

- ◎ 「地域の学校として信頼される
- ◎ 「学びたい」「学ばせたい」と誰もが思う（いわゆる「名門校」と同様の価値）
- ◎ 越境してでも入学したい

そのために…

「信頼」：地域が、親しみをもて、明るく開かれた学校

あ 安全・安心な学校

- ◎ 学校経営の基本。どこよりも安心で、安全に生活できる学校環境の構築

こ 心が育つ学校

- ◎ どんな環境におかれても、常に前向きで向上心があり、何事にも挑戦する心の育成
- ◎ 礼儀正しく、思いやりがある「品性」の醸成（自分に厳しく、他人に優しい）
- ◎ 行動を見ると、一目で柳学中生とわかる態度の育成

が 学力がある学校

- ◎ 自ら学習方法を工夫し、学び続ける姿勢の構築（学ぶ力の強さ）
- ◎ 世界のトップ校であっても臆せずチャレンジしようとする意欲、学力の獲得
- ◎ 社会で必要とされる能力の育成

れ 連携して歩む学校

- ◎ 地域に学び、地域に貢献する意識の獲得

をめざします。

めざす生徒の姿

「自信」：しなやかな知性 ゆたかな感性 たくましい心身

あ ○ 愛され、応援される生徒（豊かな感性）

（自他のよさを認め思いやりの心を持って積極的に周囲と関わる生徒を育てます。）

こ ○ 向上心があり、何事にも挑戦する生徒（しなやかな知性、たくましい心身）

（夢に向かって進んで学び新たな発想のできる生徒を育てます。）

が ○ 学習方法を工夫し、自ら学ぶ生徒（しなやかな知性）

（可能性に向かって自らを鍛え、たくましく行動する生徒を育成します。）

れ ○ 礼儀正しく、健康でさわやかな生徒（たくましい心身）

（相手の立場になって判断、行動できるたくましい心身を育てます。）

めざす教職員の姿

「信念」：情熱 共学 創造

- あ ○愛情に溢れる教師（子どもを愛し、子どもとともにある教師）
- こ ○心豊かな教師（生徒のやる気を起こさせ、生徒の活動を大切にする教師）
- か ○学力向上を追求する教師（指導方法を工夫し、生徒の自己実現を支援する教師）
- れ ○錬磨し、向上し続ける教師（研修に励み、情熱を持って協働する教師）

経営基本方針

(1) 学力の確実な定着

- 学習意欲を喚起し、個性を生かす指導方法を工夫する。
- 基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る。
- 主体的・対話的で深い学びを重視し、社会で必要とされる学びを習得させる。

(2) ゆたかな感性の育成

- 地域との交流を図り、思いやりの心を育む。
- 身の回りの環境に働きかけ自然を慈しむ態度を育成する。
- 保健指導やカウンセリングにより心身の健康を図る。

(3) 国際化・情報化への対応

- A L T の活用を工夫し、語学指導を充実する。
- 国際交流活動を活性化し、国際感覚の向上を図る。
- 生徒にコンピュータやテレビ等を使用させ、情報活用能力を育成する。

(4) 生徒指導の充実

- 学級経営の充実を図り、学校生活の居場所づくりに努める。
- 生徒との触れ合いに努める。
- 家庭、地域社会、関係機関との連携を図る。

(5) 開かれた学校づくりの推進

- 学校の教育活動を積極的に町民へ広報し、学校教育への理解を図る。
- 家庭、地域社会との融合を図り、町民参加の教育活動を実践する。
- 校外での学習や地域行事への積極的参加に努め、郷土愛の心情を育む。

(6) 指導資質の向上

- 小学校隣接の特質を生かした共同研修の充実に努める。
- 小・中の連携を深め、学習指導や生徒指導の情報交換に努める。

2019年度の特徴ある教育活動

1 確かな学力の育成のために

指導方法工夫改善等の充実

- 5つの教育実践により、授業の改善を図ります。
- 終始時刻を厳守し、集中して学べる授業をめざします。
- ねらいとアウトプットが一致する授業を行います。
- ストーリーが再現しやすい授業を行い、定着を図ります。

学習支援の徹底

- 加配により、授業におけるつまづきを防ぐT・T指導を行います。
- 授業内容の定着を図るため、学習コーナーを設置し、塾のない柳津での学習活動の活性化を図ります。

学習を支える諸条件の改善・充実の推進

- 生徒の学習が充実したものとなるように、板書、ノート指導等におけるユニバーサルデザイン化を進めます。（ICT機器活用を含む）
- 授業への参加意欲を高める規律のあり方等について徹底します。
- 学年に依拠しない検定試験のよさを活かし、「一歩前の自分」への挑戦を促します。
このことにより、資格取得による自己実現を図らせます。

目標 3年生～3級 2年生～4級

2 「わくわく どきどき」実現のために

キャリア教育の充実

- 高等学校の特色を学ぶと共に、職業観を確立し、自分の進路を早い段階で見据えさせる取り組みをします。
- 職場体験やアントレプレナーシップ育成教育などを通じて、学ぶことや働くことの意義を理解させ、望ましい勤労観・職業観を育てます。

地域に根差した環境教育の実践

- アントレプレナーシップ育成教育の活動を通して、自分の身近な環境における発見を大切にさせ、実践力を養います。

情報教育・国際理解教育

- 生徒が情報モラルを身につけ、コンピュータ等の適切な利用が出来るようにします。
- ALT、大学や高等学校の人材、留学生等を活用し、異文化に慣れ親しむ機会を積極的に設け、豊かな国際社会の構築に役立つようにします。